

韓国帰国の原爆被爆者のための福祉会館を支援し、交流をはかる

—平成 30 年度韓国訪問団を派遣—

KAKKIN は、平成 30 年 10 月 24 日（水）～27 日（土）の日程で、加藤秀治郎 KAKKIN 議長を団長に総勢 10 名の平成 30 年度韓国訪問団を派遣した。KAKKIN は昭和 45(1970)年から、日本で被爆し、韓国に帰国された治療・療養されている方々への支援活動を毎年行っている。今年は、韓国原爆被害者福祉会館の訪問・交流、大韓赤十字社との意見交換、韓国の実情把握と研修会の開催を目的に訪問した。ここではその概要を報告する。

<訪問先>

在釜山日本国総領事館、ハプチョン原爆被害者福祉会館、ハプチョン原爆被害者史料館

<研修会>

講演Ⅰ「南北首脳会談後の南北関係と日韓関係への影響」

講師：NHK ソウル支局長 高野 洋 氏

講演Ⅱ「韓国に長年暮らして思うこと」

講師：産経新聞客員論説委員 黒田勝弘氏 氏

☆在釜山日本国総領事館訪問では、道上総領事、兒玉副領事、稲田副領事に対応いただき、会合は総領事のご挨拶から始まり、管内（釜山、大邱、蔚山、慶尚南・北道）の概要説明を受け、南北や米朝首脳会談後の状況や日米に対する韓国人の思い、慰安婦や徴用工問題、日本（個人、団体、地方自治体）としての韓国への接し方 等のレクチャーを受け質疑応答を行った。

☆大韓赤十字社が行事中につき本部を訪問できず、原爆被害者福祉会館訪問時に、崔永雲(チェ・ヨンウン) 特殊福祉事業所長、李恵英(イ・ヘヨン) チーム長、が合流し、福祉会館の皆さんと一緒に意見交換した。

☆ハプチョンの原爆被害者福祉会館では、まず敷地内の慰霊堂にて礼拝を行い、福祉会館に移動して、崔特殊福祉事業所長と加藤団長の挨拶交換、日韓共同声明の確認と署名・交換、支援金の贈呈の後、福祉会館の現況報告を受けた。その後、入所者の方々へ折り鶴と広島名物もみじ饅頭を贈呈し、入所者からは団長への花束や自らが手作りした記念品を受領し、わずかな時間であったが交流できた。

☆ソウルでの研修会では、高野洋 NHK ソウル支局長、黒田勝弘産経新聞客員論説委員からそれぞれ講演・質疑を行なった。高野支局長からは、南北首脳会談後の韓国の北朝鮮への対応（異例の速さで進む南北融和）、懸念される米韓のひずみ、北朝鮮が米国に求める「相応の措置」、非核化の行方等について講演いただいた。黒田客員論説委員からは、韓国で一気に広がる Me Too 運動、南北の話をする時に使える北の話として、北の政治・経済情勢、朝鮮半島の歴史や国民気質（8道ごと）等について講演いただき、理解を深めた。



福祉会館の入所者の皆さんとの記念写真



加藤団長と李景俊父子会館長とで日韓共同声明を確認